

「油津の歴史文化遺産を活用した まちづくり計画」事業について

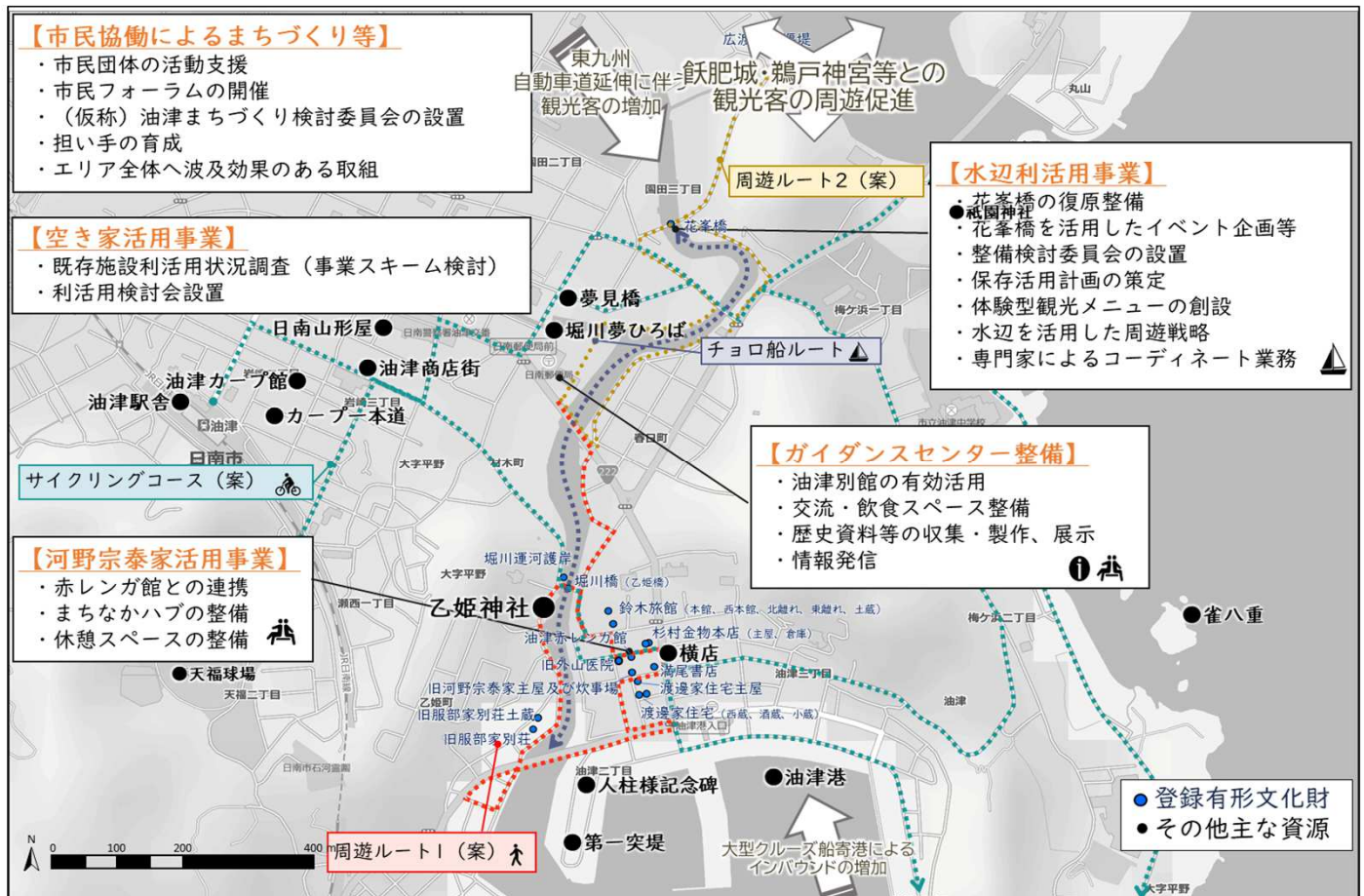
令和7年11月25日(火)

日南市	総合政策部	未来創生課
	産業経済部	観光・クルーズ課
	教育委員会事務局	生涯学習課

1 油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画

(2) まちづくり計画の概要

事業計画	令和6年度～令和10年度の5年計画
総事業費	当初計画は約15億円の見込み
財源	日南市油津文化振興戸村基金をはじめ、国庫補助等の有利な財源を活用



(3) まちづくり計画における目標値

目標項目	地域資源を活用した観光地の形成 (市民アンケート)	堀川運河周辺の通行量	市民主体イベントの参加者数
事業との関連性	「観光資源の整備」 「情報発信」	「周遊促進」 「情報発信」	「人材育成」
計画前数値 (R5年度)	満足・やや満足 19.5%	700人/日	1,050人
目標数値 (R10年度)	満足・やや満足 40.0%	1,000人/日	2,000人

1 油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画

(4) まちづくり計画における事業

「①観光資源の整備」、「②周遊促進」、「③情報発信」、「④人材育成」の4つを軸に事業を展開
(市の予算事業及び所管課との関係性も記載)

事業名 (事業費)	具体的取組	概要	市予算事業名 (所管課)	4つの軸
ガイダンスセンター整備事業 (470,000千円)	ガイダンスセンター整備事業	油津別館を歴史や地域の魅力を発信する施設へ改修	②歴史資料館整備 (ガイダンスセンター)整備事業 (未来創生課)	①・②
	歴史文化周知伝承事業	堀川運河、飢肥杉等に関する資料を展示		②・③
	観光PR事業	まちの周遊促進を図るための観光情報を発信	⑥水辺利活用事業 (観光・クルーズ課)	②・③
水辺利活用事業 (735,000千円)	花峯橋再生事業	花峯橋の復原整備及び橋を活用したイベント等の企画	⑦花峯橋整備事業 (生涯学習課)	①
	体験型観光メニューの創設	堀川運河周辺の周遊及び滞留を促進	⑥水辺利活用事業 (観光・クルーズ課)	②
	専門家派遣	まちづくりを円滑に進めるためコーディネートを委託	①油津文化遺産振興事業 (未来創生課)	①～④
	周遊促進事業	観光誘客を図るため、周遊ルートや案内サインを整備	⑥水辺利活用事業 (観光・クルーズ課)	②・③
河野宗泰家活用事業 (170,000千円)	河野宗泰家主屋整備事業	観光客や地域住民などが交流できる場所を整備	③河野宗泰家整備事業 (未来創生課)	①
	河野宗泰家庭園整備事業	まちなか周遊の休憩スペースを整備		②
	赤レンガ館整備事業	飲食店等への改修に向けた検討		①・②
空き家活用事業 (50,000千円)	空き家活用事業 (文化財・古民家)	民間投資による再生を進めるための事業検討	④既存施設利活用事業 (未来創生課)	②・④
市民協働によるまちづくり検討 (7,000千円)	市民活動支援事業	イベント等による誘客に取組む市民団体を支援	⑤市民活動支援事業 (未来創生課)	③・④
	まちづくり検討会の設置	地域と事業進捗の共有及び提言等を行う場を設置	⑥油津文化遺産振興事業 (未来創生課)	②・④

(計 1,432,000千円)

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要①

①-1 油津文化遺産振興事業（その1）／未来創生課

（まちづくり計画）水辺利活用事業

① 事業概要

歴史的価値の高い木橋である花峯橋を復原整備し、新たな文化的価値の創造・発信を図るとともに、堀川運河の歴史の継承や周遊ルートの設定、体験型観光メニューの創設及び滞在環境の向上などにより、地域の賑わいの創出を図ります。

② 期待される主な効果

- ・ 復原整備に関与し郷土愛の醸成や地域コミュニティを形成
- ・ 橋を活用したイベント等による、集いの場を創出
- ・ 来訪者の滞在環境を向上
- ・ 堀川運河や歴史資源、水辺空間を含めた面的な魅力の向上
- ・ 油津地区の歴史文化遺産に関する観光の促進
- ・ 滞在時間の延伸による地域活力の向上
- ・ 油津地区内外における周遊の促進

③ 具体的取組内容

【花峯橋再生事業】

- 花峯橋の復原整備
- 花峯橋を活用したイベント企画等

【体験型観光メニューの創設】

- 水辺を活用した体験型観光メニューを創設

【専門家派遣】

- まちづくりを円滑に進めるため、事業全体のコーディネート業務

【周遊促進事業】

- 水辺を活用した周遊戦略
- 周遊ルートや案内サインの整備、チョロ船体験の実施等



【取組状況】

<令和6年度>（令和7年度以降も継続）

1 コーディネーターの選任（公募型プロポーザル）

- 油津の歴史文化遺産を活用したまちづくりコーディネーターに
（株）NTTデータ経営研究所（東京） 大野博堂氏 を選任
- 履行期間 令和6年8月16日～令和11年3月31日
- 定例的に打合せ等を行い事業進行の提言等を受ける。
 - 月2回程度、対面及びオンラインで打合せを実施
 - 油津歴史文化遺産活用事業推進会議に出席
 - R7年1月開催の「へえ～ほお～まちあるきイベント」に参加
- 子育て世帯の保護者や、市内中学生を対象としたアンケート実施（設問作成、結果分析）
- 建設費用の高騰による公共事業への影響に関する調査報告（別添資料ご参照）



大野 博堂（おおのはくどう）氏

（株）NTTデータ経営研究所
マネージングディレクター 金融政策コンサルティングユニット長
東京科学大学大学院
サイバーセキュリティ経営戦略コース講師
飯能信用金庫 監事
総務省地方公共団体経営・財務アドバイザー

2 各事業の進捗状況

①-2 油津文化遺産振興事業（その2）／未来創生課

（まちづくり計画）市民協働によるまちづくり検討

① 事業概要

コンセプトである「堀川運河とその周辺の歴史・文化を感じ、居心地のよい歩きたくなるまち」の実現に向けては、官民一体となって交流・滞在空間を創出することが大切です。

更に、住民意向や民間のまちづくりに関する活用等を踏まえ、地域の特性を活かした創意工夫のある事業の推進も必要です。

このようなことから、市民協働による事業の推進を図る取組を実施します。



（油津地域協議会による「へえ～ほお～まちあるき」）

② 具体的取組内容

【市民活動支援事業】

■ 市民団体の活動支援

【まちづくり検討会の設置】

■ （仮称）油津まちづくり検討会の設置

【取組状況】

<令和6年度>（令和7年度以降も継続）

1 「油津歴史文化遺産活用事業推進会議」を設立

- 事業の進捗状況の共有、提言をもらう場として、令和6年5月15日設立。
- 今後も、年に2回程度の会議を開催。
- 委員は以下のとおり。（令和7年度時点）

No.	区 分	所属団体名	所属団体役職名	氏 名	特記事項
1	地域代表	日南市自治会連合会	代表者	益田 政司	委員長
2	地域代表	油津地域協議会	代表者	細田 勝	
3	関係団体	日南商工会議所	専務理事	落合 兼久	副委員長
4	関係団体	一般社団法人 日南市観光協会	事務局長	廣池 幸治	
5	関係団体	一般社団法人 宮崎県建築士会 日南支部	事務局 （財産マネジメント課）	山口 勝也	
6	有識者 （文化財・建築）	国立大学法人 鹿児島大学大学院	教授	木方 十根	
7	有識者 （公共調達）	国立大学法人筑波大学 人文社会系	教授	楠 茂樹	
8	有識者 （観光・交通）	宮崎空港ビル株式会社	取締役営業部長	藤本 誠一	
9	有識者 （文化財）	教育委員会生涯学習課	文化財専門担当官	長友 禎治	
10	行政（市）	総合政策部	総合政策部長	宮口 美子	
11	行政（市）	教育委員会事務局	教育部長兼学校教育課長	鬼束 昌義	

2 各事業の進捗状況

【事業費の比較】

油津文化遺産振興事業／未来創生課

<まちづくり計画>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
実施内容	検討会設置					合計
	コーディネーター選任					
事業費	8,400	8,400	8,400	8,400	8,400	42,000
交付金	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	21,000
基金	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	21,000

<現状>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
実施内容	推進会議設置					合計
	コーディネーターと連携					
	通行量調査					
事業費	9,210	10,079	10,079	10,079	14,721	54,168
交付金	4,426	4,868	4,869	4,869	7,271	26,303
基金	4,784	5,211	5,210	5,210	7,450	27,865

【変更点等】

- 事業効果を測定するための「通行量調査」を追加。概要は以下のとおり。
 - 年2回（6月頃と11月頃）、堀川運河周辺8箇所で実施。
 - 調査対象は、歩行者及び自転車（性別、年齢、日本人か外国人別に集計）
- その他、最終年度の事後評価に係る経費や推進会議委員旅費等を追加。

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要②

② 歴史資料館（ガイダンスセンター）整備事業／未来創生課

（まちづくり計画）ガイダンスセンター整備事業

① 事業概要

日南市役所油津別館を活用して、地域の歴史や文化、伝統を紹介する機能を有するとともに、地域住民と観光客が交流できる機能を持ち、まちの周遊の拠点となるガイダンスセンターを整備します。

また、周遊促進や地域の魅力発信のためホームページの開設やパンフレットの作成を行います。

② 期待される主な効果

- ・ 油津地区の歴史文化の伝承
- ・ 来訪者や市民が油津地区の歴史文化遺産を学ぶ場
- ・ 油津地区の歴史文化遺産に関する周遊を促進する場
- ・ 地域住民と来訪者との交流の場
- ・ 誰でも自由に利用でき、くつろげる場

③ 具体的取組内容

【ガイダンスセンター整備事業】

- 油津別館の有効活用
- 交流・飲食スペース整備
- Wi-Fiなどデジタルデバイスの整備

【歴史文化周知伝承事業】

- 歴史資料等の収集・製作、展示

【観光PR事業】

- ホームページ、パンフレットの作成
- 情報発信



油津別館



イメージパース図



【取組状況】

<令和6年度>

1 「油津別館改修設計業務受託者の選定」及び「実施設計業務の委託」

- 令和6年8月8日 公開プレゼンテーション実施（応募件数 1件）
- 株式会社オンデザインパートナーズ（本社：横浜市）を選定

<令和7年度>

1 油津別館改修設計業務の継続

- 8月末に実施設計業務完了。（基本計画は市HPへ掲載済）

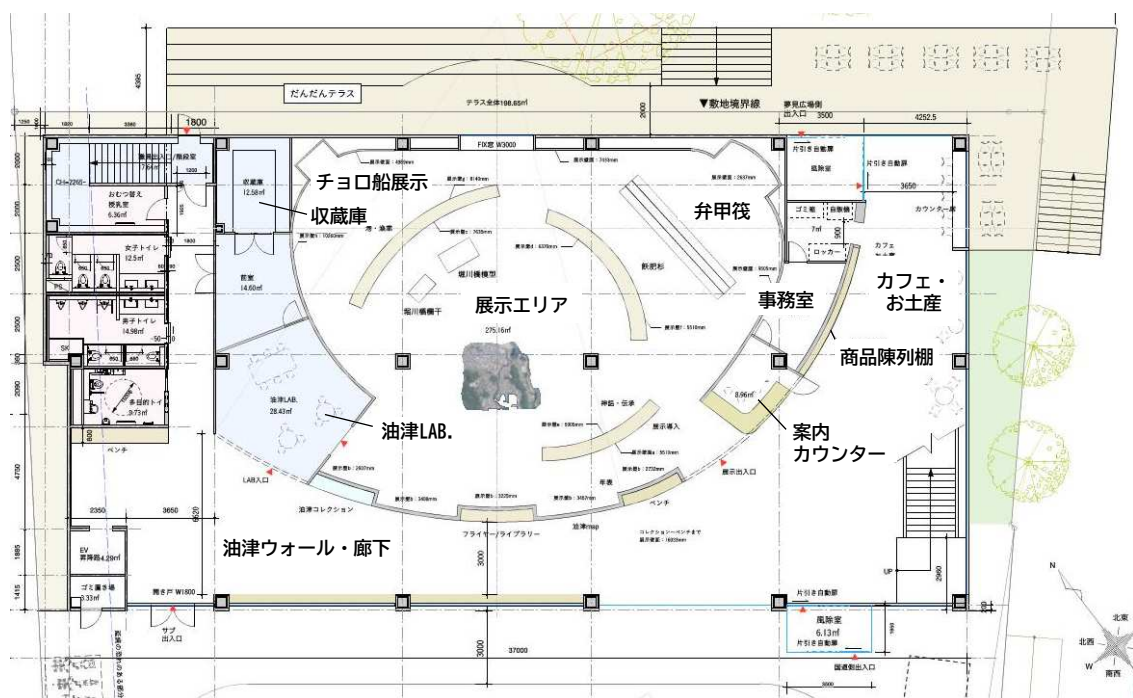
2 油津別館改修工事発注準備

- 12月～1月に入札予定。業者選定後、3月定例会で契約締結の議案上程予定。
- 令和7年中の発注に向けて準備中。

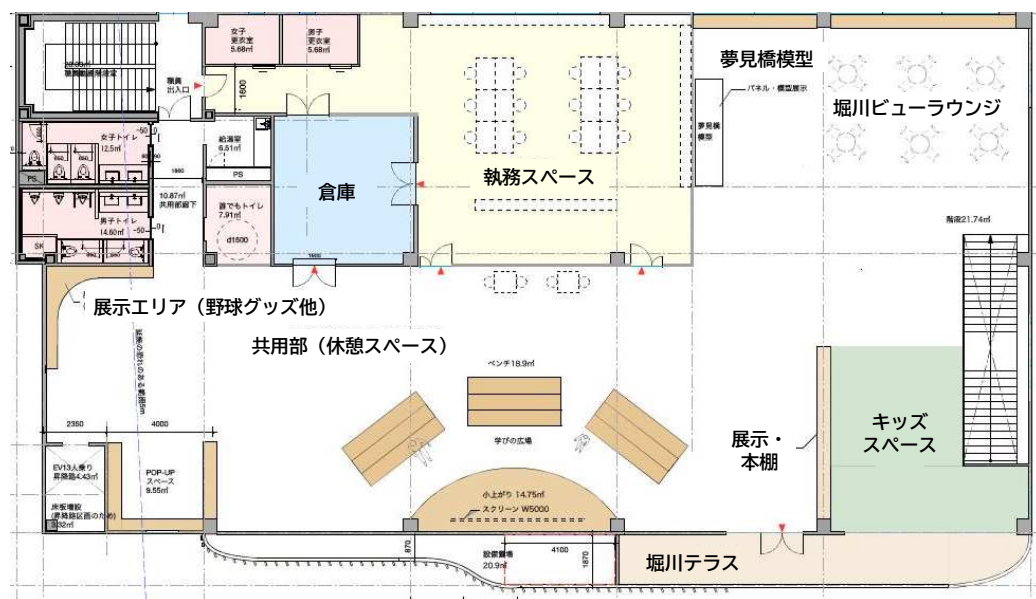
2 各事業の進捗状況

【施設のレイアウト（案）】※基本計画より

1 F



2 F



2 事業の進捗状況

【事業費の比較】

歴史資料館（ガイダンスセンター）整備事業／未来創生課

<まちづくり計画>

（単位：千円）

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	調査設計	工事	展示品収集			
事業費	20,000	435,000	5,000			460,000
交付金	10,000	217,500	2,500			230,000
基金	10,000	217,500	2,500			230,000

<現状>

（単位：千円）

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容						
事業費	32	563,583 (現)544,000 (繰)19,583	116,000			679,615
交付金	0	241,440	58,000			299,440
基金	32	322,143	58,000			380,175

【変更点等】

- 地震による改修範囲の増加、物価高騰等により事業費が増額
 (改修工事) 計画 410,000千円 → 見込 600,000千円 (※1)
 (展示制作等) 計画 30,000千円 → 見込 60,000千円

※1 本体工事 539,000千円 + 外構工事 61,000千円 = 600,000千円
 > 本体工事に係る増額分は、令和7年9月補正で、予算措置済。
 > 外構工事に係る事業費は、令和8年度当初予算で要求

- 執務室に係る事業費は補助対象外のため、基金充当額が多い。

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要③

③ 河野宗泰家整備事業／未来創生課

(まちづくり計画) 河野宗泰家活用事業

① 事業概要

国の登録有形文化財である河野宗泰家を改修し、観光客や地域住民など、多様な人々が交流、滞在できる「まちなかハブ」として整備します。あわせて、庭園の緑地化等を行い、回遊時の休憩や飲食が可能なスペースとします。

また、隣接する赤レンガ館と連携した集客を図るため、赤レンガ館における飲食店等の導入について検討し、必要な改修を行います。

② 期待される主な効果

- ・ 歴史文化遺産（河野宗泰家）の継承
- ・ 地域住民と観光客等の交流の促進
- ・ 歴史的な街並みの景観向上
- ・ 来訪者の滞在環境の向上

③ 具体的取組内容

【河野宗泰家主屋整備事業】

■ まちなかハブの整備

【河野宗泰家庭園整備事業】

■ 休憩スペースの整備

【赤レンガ館整備事業】

■ 赤レンガ館との連携



河野宗泰家



イメージパース図



まちなかハブ
イメージ



赤レンガ館

まちなかハブとは…

利用目的や利用者を特定せず、誰もが休憩、交流、自習、情報発信、テレワーク、まちづくり活動等の多様な用途に活用できる施設



【取組状況】

<令和6年度>

1 主屋耐震・劣化調査を実施

- 委託先 小島建築設計（日南市岩崎）
- 委託期間 令和6年10月18日～令和7年2月21日
- 調査結果 (1) 屋根部分の劣化が進行。雨漏り等に起因する天井や壁等の破損がひどい。
(2) 耐震性が低く、改修に当たっては耐震補強が必要。

➢ 上部構造の評点 0.142（倒壊する可能性が高い）（参考）倒壊しない基準 1.0



(主屋2階・和室)



(主屋2階)
※天井が崩落し吊り材だけが残る



(小屋2階)
※天井部分が劣化して崩落

2 事業の進捗状況

【事業費の比較】

河野宗泰家整備事業／未来創生課

<まちづくり計画>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	耐震・劣化調査	実施設計	建物改修 庭園整備			
事業費	4,000	51,000	115,000			170,000
交付金	2,000	25,500	57,500			85,000
基金	2,000	25,500	57,500			85,000

<現状>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	●→ 耐震・劣化調査	●→ 整備方針検討	●→ 実施設計	●→ 建物改修 庭園整備		
事業費	3,311	0	12,000	505,000		520,311
交付金	1,655	0	6,000	252,500		260,155
基金	1,656	0	6,000	252,500		260,156

【変更点等】

- 耐震・劣化調査を受け、建物の改修費用を再算定したところ、現計画の事業費内では改修が難しいことが判明。

改修方法	最低限の耐震補強	全面改修
工事費概算	80,000千円	480,000千円
条 件	①屋根下地及び柱梁は既存のまま ②耐震補強工事を含む ③防火設備に係る費用は含まない (必要な場合は、増額となる) ・人の進入は絶対不可 ・構造体を改修しないため、 倒壊の可能性は残る ・交付金対象外	①安全性に問題があるため、構造体の改造が必要 ②構造体の改修に伴う建築確認申請が必要(申請手数料は別途) ③準防火地域のため、防火設備(ドレンチャー)の設置が必要



(イメージ) ドレンチャー

- また、改修に当たっては曳家(建物をそのまま移動)が必要になる可能性もあり、庭園整備単独の実施は難しい。

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要④

④ 既存施設利活用事業／未来創生課

(まちづくり計画) 空き家活用事業

① 事業概要

油津地区内の文化財や古民家の活用について、民間主導による体制を構築し、企業等の誘致・雇用の促進に繋がる取組を推進します。

② 期待される主な効果

- ・ 歴史文化遺産の継承
- ・ 文化財を活用した地域の賑わい創出
- ・ まちの魅力向上や歴史的な街並みの景観向上による周遊促進
- ・ 来訪者の滞在環境の向上
- ・ 民間事業者の進出による雇用の促進

③ 具体的取組内容

【空き家（文化財・古民家）活用事業】

- 既存施設利活用状況調査（事業スキーム検討）
- 利活用検討会設置



(利活用イメージ)

(油津地区内の文化財)



【取組状況】

<令和6年度>

1 優良事例視察（文化財の利活用事例の視察）

- 視察先 NIPPONIA HOTEL 八女福島 商家町（福岡県八女市）
- 施設の概要 旧福島酒造の工場と旧大坪茶舗の店舗等（いずれも文化財登録物件）をホテルに改修した施設。

2 事業の進捗状況

【事業費の比較】

既存施設利活用事業／未来創生課





<まちづくり計画>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	運営体制 検討会	●————→ 民間投資活用 の仕組み作り (補助を想定)				
事業費	1,639	24,200	24,161			50,000
交付金	819	12,100	12,081			25,000
基金	820	12,100	12,080			25,000

<現状>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	 優良事例 視察	 方針検討	 運営体制 検討会			
			 民間投資活用 の仕組み作り (補助を想定)			
事業費	34	0	24,264	24,264	61	48,623
交付金	0	0	12,101	12,102	0	24,203
基金	34	0	12,163	12,162	61	24,420

【変更点等】

- 現状では、令和6年度、令和7年度は、国の交付金採択額に合わせて、事業費を調整しているところ。

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要⑤

⑤ 市民活動支援事業／未来創生課

(まちづくり計画) 市民協働によるまちづくり検討

① 事業概要

コンセプトである「堀川運河とその周辺の歴史・文化を感じ、居心地のよい歩きたくなるまち」の実現に向けては、官民一体となって交流・滞在空間を創出することが大切です。

更に、住民意向や民間のまちづくりに関する活用等を踏まえ、地域の特性を活かした創意工夫のある事業の推進も必要です。

このようなことから、市民協働による事業の推進を図る取組を実施します。



(油津地域協議会による「へえ～ほお～まちあるき」)

② 具体的取組内容

【市民活動支援事業】

■ 市民団体の活動支援

【まちづくり検討会の設置】

■ (仮称) 油津まちづくり検討会の設置

【取組状況】

<令和6年度>

1 補助要綱の検討

- コーディネーターと事業内容等を検討し、補助要綱策定に向けた準備を行った。

<令和7年度>

1 補助要綱の制定

- 補助対象者 5人以上（半数以上は市民）等の要件を満たす市民団体
- 補助対象事業 ① まちの賑わい創出や地域住民と観光客等の交流促進等を目的としたイベントに要する経費を補助(補助上限 20万円)
② まちづくりの機運醸成を図るために開催する市民活動等の事例発表を目的とした市民フォーラムの開催に要する経費を補助(補助上限 200万円)

2 補助事業者の募集・決定

令和7年6月から7月に募集を行い、4団体を補助対象者として決定。

- 補助対象者 ① 桜ヶ丘小学校岩崎地区（水中ドローンで学ぶ堀川運河）
② Sunday living market実行委員会（Sunday living market）
③ 瀬西区自治会（広島東洋カープ歓迎ミニ鯉のぼり飾付け）
④ 宮崎県立日南高等学校（みんなハッピーストリートサッカー）

※カッコ内は
申請事業名

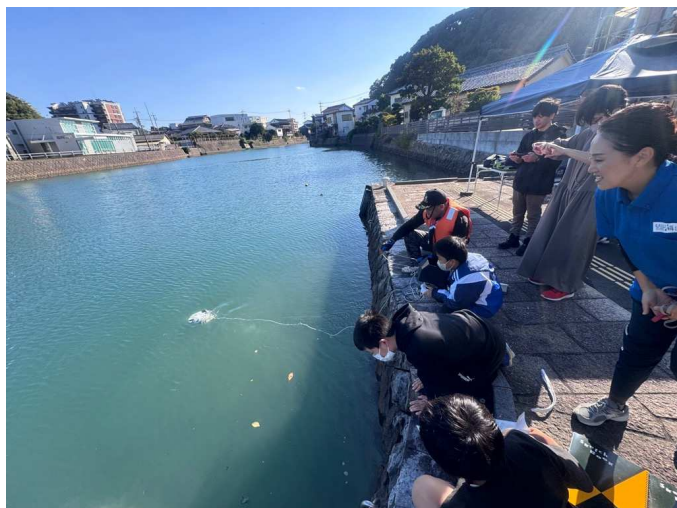
2 各事業の進捗状況

【事業の様子】

(1) 桜ヶ丘小学校岩崎地区（水中ドローンで学ぶ堀川運河）

実施日 令和7年11月15日（土）

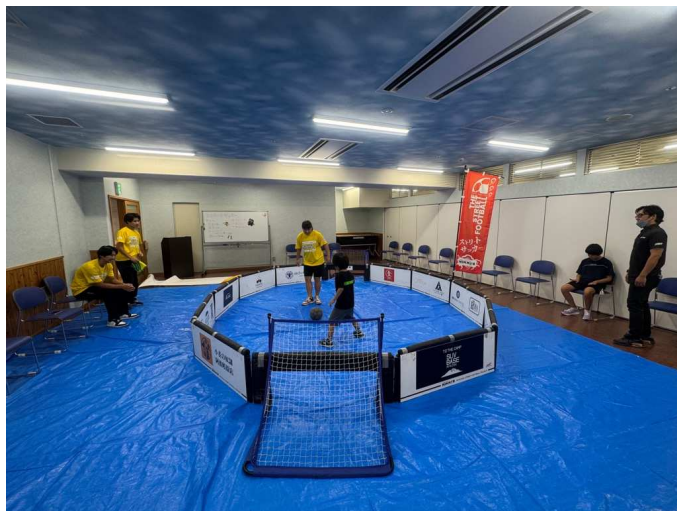
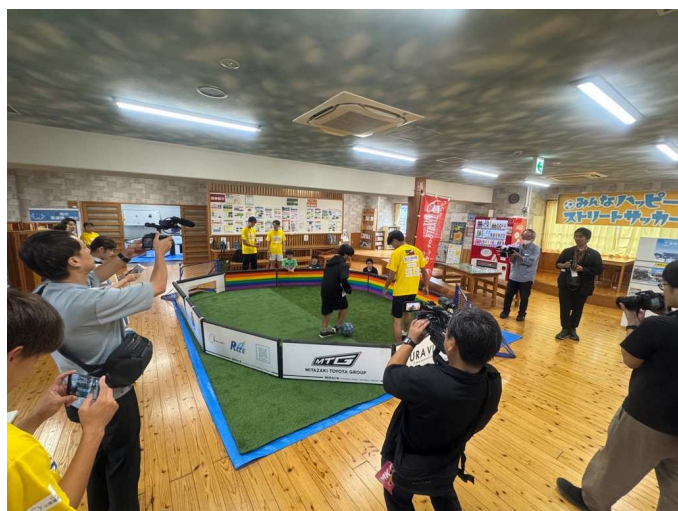
概要 堀川運河及び油津港周辺にて、水中ドローンを用いた海中観察体験を実施。水中の様子（ごみの有無、水の濁り、生き物など）を自らの目で観察し、地域の自然環境や課題について学ぶ機会を提供。



(2) 宮崎県立日南高等学校（みんなハッピーストリートサッカー）

実施日 令和7年10月11日（土）

概要 高校生が主体となり、障がいの有無や年齢、国籍を超えて、「誰もが一緒に楽しめる場」を地域に広げることを目的に、ストリートサッカーを実施。会場では、地元企業の展示・ワークショップなども実施。



2 事業の進捗状況

【事業費の比較】

市民活動支援事業／未来創生課

<まちづくり計画>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	補助交付	補助交付 市民フォーラム	補助交付			
事業費	1,000	3,000	1,000			5,000
交付金	500	1,500	500			2,500
基金	500	1,500	500			2,500

<現状>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	●→ 要綱制定 準備	●→ 補助交付	●→ 補助交付 市民フォーラム			
事業費	0	800	3,000			3,800
交付金	0	400	1,500			1,900
基金	0	400	1,500			1,900

【変更点等】

- 令和6年度は、国の交付金の採択額に合わせて事業費を調整。
令和7年度以降の補助実施に向け、補助要綱制定に向け、コーディネーターと相談しながら、事業内容を検討。
- 令和7年度に応募がなかった「市民フォーラム」は、令和8年度に再度募集を行う予定。

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要⑥

⑥-1 水辺利活用事業（その1）／観光・クルーズ課

（まちづくり計画）水辺利活用事業

① 事業概要

歴史的価値の高い木橋である花峯橋を復原整備し、新たな文化的価値の創造・発信を図るとともに、堀川運河の歴史の継承や周遊ルートの設定、体験型観光メニューの創設及び滞在環境の向上などにより、地域の賑わいの創出を図ります。

② 期待される主な効果

- ・ 復原整備に関与し郷土愛の醸成や地域コミュニティを形成
- ・ 橋を活用したイベント等による、集いの場を創出
- ・ 来訪者の滞在環境を向上
- ・ 堀川運河や歴史資源、水辺空間を含めた面的な魅力の向上
- ・ 油津地区の歴史文化遺産に関する観光の促進
- ・ 滞在時間の延伸による地域活力の向上
- ・ 油津地区内外における周遊の促進

③ 具体的取組内容

【花峯橋再生事業】

- 花峯橋の復原整備
- 花峯橋を活用したイベント企画等

【体験型観光メニューの創設】

- 水辺を活用した体験型観光メニューを創設

【専門家派遣】

- まちづくりを円滑に進めるため、事業全体のコーディネート業務

【周遊促進事業】

- 水辺を活用した周遊戦略
- 周遊ルートや案内サインの整備、チョロ船体験の実施等



【取組状況】

<令和6年度>

1 堀川運河の水質調査を実施

- 調査内容 令和6年11月29日に、水門下流からみなと大橋下流までの8箇所で採水
- 調査結果
 - ・ 泳いだりシュノーケリングをしたりすることは、好ましくない。
 - ・ カヌーなどの水上アクティビティの実施は問題ない。

<令和7年度>

1 堀川運河を核とする周遊プラン基礎調査・検討業務

- 委託業者 株式会社NTTデータ経営研究所
- 業務内容 堀川運河を核とした周遊ルートの整備及び体験メニューの具体的検討を実施

2 堀川運河周辺遊歩道等整備に係る基礎調査業務

- 委託業者 株式会社フジヤマ
- 業務内容 周遊ルート整備等の具体的検討に向け、歩行者目線での周遊安全性の点検等

2 各事業の進捗状況

⑥-2 水辺利活用事業（その2）／観光・クルーズ課

（まちづくり計画）ガイダンスセンター整備事業

① 事業概要

日南市役所油津別館を活用して、地域の歴史や文化、伝統を紹介する機能を有するとともに、地域住民と観光客が交流できる機能を持ち、まちの周遊の拠点となるガイダンスセンターを整備します。

また、周遊促進や地域の魅力発信のためホームページの開設やパンフレットの作成を行います。

② 期待される主な効果

- ・油津地区の歴史文化の伝承
- ・来訪者や市民が油津地区の歴史文化遺産を学ぶ場
- ・油津地区の歴史文化遺産に関する周遊を促進する場
- ・地域住民と来訪者との交流の場
- ・誰でも自由に利用でき、くつろげる場

③ 具体的取組内容

【ガイダンスセンター整備事業】

- 油津別館の有効活用
- 交流・飲食スペース整備
- Wi-Fiなどデジタルデバイスの整備

【歴史文化周知伝承事業】

- 歴史資料等の収集・製作、展示

【観光PR事業】

- ホームページ、パンフレットの作成
- 情報発信



油津別館



写真：国土交通省
資料：コワーキングスペース
「Studio RICO」

【取組状況】

本事業は、他の事業の進捗を踏まえ、令和8年度以降、具体的に取り組を進める。

2 事業の進捗状況

【事業費の比較】

水辺利活用事業／観光・クルーズ課

<まちづくり計画>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容		周遊策検討 体験メニュー 創設等	パンフレット、 ホームページ 作成 ●	(R10まで)	案内サイン 整備	
事業費		110,000	8,000	1,000	11,000	130,000
交付金		55,000	4,000	500	5,500	65,000
基金		55,000	4,000	500	5,500	65,000

<現状>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	●→ 水質検査 ●→ 優良事例 調査	●→ 周遊プラン検討 ●→ 遊歩道等整備 基礎調査	●→ 体験メニュー用 資材購入 ●→ 案内サイン 整備 ●→ パンフレット作成	●→ VR等開発 ●→ ホームページ作成		
事業費	188	20,110	64,110	21,016	11,016	116,440
交付金	0	10,000	32,000	10,500	5,500	58,000
基金	188	10,110	32,110	10,516	5,516	58,440

【変更点等】

- 1 全体の事業の進捗状況を考慮し、事業スケジュールを調整
- 2 令和7年度の周遊プラン検討、遊歩道等整備基礎調査を受け、具体的な周遊方策を検討

2 各事業の進捗状況

(1) 各事業の概要⑦

⑦ 花峯橋整備事業／生涯学習課

(まちづくり計画) 水辺利活用事業

① 事業概要

歴史的価値の高い木橋である花峯橋を復原整備し、新たな文化的価値の創造・発信を図るとともに、堀川運河の歴史の継承や周遊ルートの設定、体験型観光メニューの創設及び滞在環境の向上などにより、地域の賑わいの創出を図ります。

② 期待される主な効果

- ・ 復原整備に関与し郷土愛の醸成や地域コミュニティを形成
- ・ 橋を活用したイベント等による、集いの場を創出
- ・ 来訪者の滞在環境を向上
- ・ 堀川運河や歴史資源、水辺空間を含めた面的な魅力の向上
- ・ 油津地区の歴史文化遺産に関する観光の促進
- ・ 滞在時間の延伸による地域活力の向上
- ・ 油津地区内外における周遊の促進

③ 具体的取組内容

【花峯橋再生事業】

- 花峯橋の復原整備
- 花峯橋を活用したイベント企画等

【体験型観光メニューの創設】

- 水辺を活用した体験型観光メニューを創設

【専門家派遣】

- まちづくりを円滑に進めるため、事業全体のコーディネート業務

【周遊促進事業】

- 水辺を活用した周遊戦略
- 周遊ルートや案内サインの整備、チョロ船体験の実施等



【取組状況】

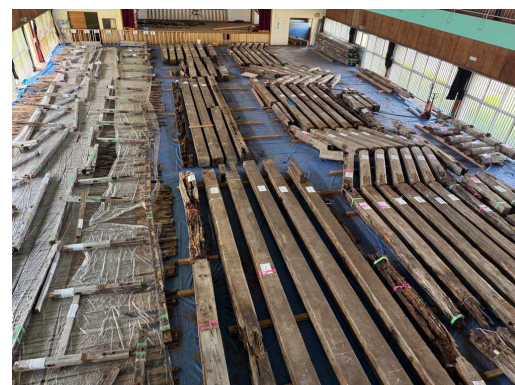
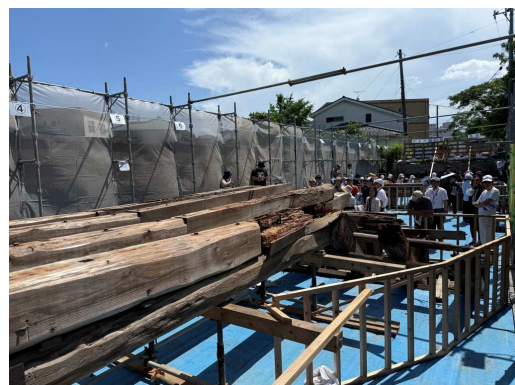
<令和6年度>

1 花峯橋解体事業者の選定

- 受注者 株式会社 中幸組
- 工期 令和7年2月12日～令和7年7月31日（繰越）

2 解体工事の管理及び部材調査業務

- 受注者 株式会社 文化財保存計画協会



<令和7年度>

1 花峯橋解体工事及び部材調査

- 令和7年7年度末解体工事完了。
- 解体工事現場説明会を、令和7年6月17日～18日
- 解体した部材は、南郷の体育館に保管し、調査を実施。

2 事業の進捗状況

【事業費の比較】

花峯橋整備事業／生涯学習課

<まちづくり計画>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容	解体工事、 部材調査	実施設計	復原工事			
事業費	132,000	30,000	413,000			575,000
交付金	66,000	15,000	206,500			287,500
基金	66,000	15,000	206,500			287,500

<現状>

(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
実施内容						
事業費	19,399	62,025 (現) 928 (繰) 61,097	33,884	420,352		535,660
交付金	832	35,383	16,478	209,712		262,405
基金	18,567	26,642	17,406	210,640		273,255

【変更点等】

1 現時点の算定では、令和8年度以降の事業費が大幅に変更となる見込み。

今後の実施設計の結果次第ではさらに変更となる可能性がある。(単位：千円)

年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	合計
変更前	19,399	62,025	33,884	420,352		535,660
変更見込	19,399	62,025	145,752	372,528		599,704
差額			+111,868	△47,824		+64,044
(変更理由)			計画期間内に工事を完了させるため、一部工事を前倒し。大型部材も必要になったことから、工事費も増額。	一部工事が前倒しになった分、減額となったが、全体的な工事費は増額。		

2 事業の進捗状況

(2) 「まちづくり計画事業費」と「現状の事業費」との比較

(単位：千円)

事業名	まちづくり計画 事業費 (A)	現状の 事業費 (B)	差額 (B - A)
① 油津文化遺産振興事業 (未来創生課)	42,000	54,168	12,168
② 歴史資料館整備事業 (未来創生課)	460,000	679,615	219,615
③ 河野宗泰家整備事業 (未来創生課)	170,000	520,311	350,311
④ 既存施設利活用事業 (未来創生課)	50,000	48,623	△1,377
⑤ 市民活動支援事業 (未来創生課)	5,000	3,800	△1,200
⑥ 水辺利活用事業 (観光・クルーズ課)	130,000	116,440	△13,560
⑦ 花峯橋整備事業 (生涯学習課)	575,000	(※)599,704	24,704
合 計	1,432,000	2,022,661	590,661
国交付金	716,000	964,430	248,430 実不足額 191,930
基金	716,000	1,058,231	342,231 実不足額 278,062

※花峯橋整備事業の事業費は、増額見込後の事業費を記載。

<主な増額要因>

【歴史資料館整備事業】

➢ 物価高騰、地震の影響による改修範囲の増による、工事費の増数

【河野宗泰家整備事業】

➢ 耐震・劣化調査結果を踏まえた、工事費の増嵩

【花峯橋整備事業】

➢ 解体により復原に必要な部材等が判明したことに伴う、工事費の増嵩

3 事業を進めるうえでの課題

(1) 財源不足

- ① 油津文化遺産振興事業で活用している「社会資本整備総合交付金（まちなかウォークブル推進事業）」は、全国からの要望が多く、要望額に対して交付決定額が低い。

交付額確保のため、毎年国への要望活動を実施。

（各年度の要望額に対する交付決定額）

【令和6年度】

〔交付金要望額〕 84,345千円 → 〔交付決定額〕 50,600千円（約60%）

【令和7年度】

〔交付金要望額〕 380,358千円 → 〔交付決定額〕 259,100千円（約68%）

（交付決定額の減に対する現状の対策と課題）

- ・令和6・7年度は、交付決定額に合わせて事業費を調整するため、一部事業の実施年度を後年度へ移行。この際、全体事業費の変更は行っていない。
- ・5か年で事業を完了させるためには、令和8年度以降の後年度への移行は困難。

(2) 河野宗泰家整備事業

- ① 当初想定していた事業費を大きく上回る見込み

（まちづくり計画）170,000千円 → （事業費見込）520,311千円

- ② 「建物が隣地境界線を越境」し、「隣接民家とも壁を共有」しているため、これらの解消が必要。調整期間を考慮すると、計画期間内での完成は難しい。

(3) 既存施設利活用事業

- ① 「河野宗泰家」の状況から、他の施設を利活用するに当たっても、事業費が高額になることが見込まれる。（防火設備の設置が必要）
- ② 全体事業費が高騰する中、市が補助をしない民間投資の活用の仕組みづくりが重要。

(4) 花峯橋整備事業

- ① 解体したところ、復原に当たって、大型木材（長さ10m弱の木材）が必要となり、事業費が増嵩
- ② 具体的な工事費は、今後の実施設計後に判明するが、今後の物価高騰の動向によっては、事業費がさらに増額する恐れがある。

4 事業計画の変更（案）について

コーディネーターと事業計画の変更について、寄附者の意向も踏まえ協議を進めている。
現時点の変更案については、以下のとおり。

(1) 変更点等

① 河野宗泰家の整備方針の再考（R8以降事業費 517,000千円 → 0円）

- ・改修方法や整備時期、別事業の活用等を再考する。

② 既存施設利活用事業の方針の変更（R8以降事業費 48,528千円 → 0円）

- ・「まちづくり計画」においては、具体の施設を特定せず、油津地域にある文化財を中心とした施設の活用を想定していたが、今計画期間においては、旧堀川資料館等、活用する施設の特定を行う。

③ 年次毎に事業費を調整（現時点では、事業費はそのまま）

- ・花峯橋整備事業に係る工事費は概算のため、事業費抑制に向け、関係機関と調整を行う。

(2) 変更後の事業費の比較

事業名	まちづくり 計画事業費 (A)	想定事業費 【変更前】 (B)	想定事業費 【変更後】 (C)	差額 (C - A)
① 油津文化遺産振興事業 (未来創生課)	42,000	54,168	54,168	12,168
② 歴史資料館整備事業 (未来創生課)	460,000	679,615	679,615	219,615
③ 河野宗泰家整備事業 (未来創生課)	170,000	520,311	3,311	△166,689
④ 既存施設利活用事業 (未来創生課)	50,000	48,623	34	△49,966
⑤ 市民活動支援事業 (未来創生課)	5,000	3,800	3,800	△1,200
⑥ 水辺利活用事業 (観光・クルーズ課)	130,000	116,440	116,440	△13,560
⑦ 花峯橋整備事業 (生涯学習課)	575,000	599,704	599,704	24,704
合 計	1,432,000	2,022,661	1,457,072	25,072
国交付金	716,000	964,430 実不足額 191,930	681,727	△34,273
基金	716,000	1,058,231 うち不足 278,062	Ⓐ 775,345	59,345

※基金の見通し （事業開始時点基金残高）779,829千円 - ① = 4,484千円

5 今後の展開について

(1) 計画変更を踏まえた今後の展開

① 他の市所有既存施設の活用

河野宗泰家や、既存施設利活用事業で対象としていた民間所有の文化財や古民家ではなく、大規模な改修が不要な他の市所有既存施設（赤レンガ館や旧堀川資料館等）の活用について、民間の力の活用も視野に、関係者と意見交換等を行う。

【（参考①）赤レンガ館の現状】

- ・館内施設は以下のとおり。
 - 1階 … 観光・歴史案内休憩室及び多目的室（無料）、お土産コーナー
 - 2階 … 多目的交流スペース（休憩等の個人利用は無料。貸し切りは有料(280円/時間～)）
- ・まちづくり計画においては、飲食店等への整備検討を行う計画となっている。

【（参考②）旧堀川資料館の現状】

- ・建物は株式会社グライダーへ「事務所及び飲食施設」として貸付（単年契約）
- ・令和7年度貸付料 243,770円／年

② 地域との連携

油津地域協議会主催の「へえ～ほお～まちあるき」や、市民団体活動支援補助金を受けて実施されるイベント等を通じて、官民一体となって、まちづくり計画事業のPR及びまちへの周遊促進を図る。

➤ 上記①・②の取組により、まちづくり計画の目標達成に努める。

(2) その他、まちづくり計画を進めるうえでの留意点

① 駐車場の確保

整備される歴史資料館、堀川運河周辺の周遊促進を図るため、大型バスも利用可能な駐車場の確保を行う必要がある。

水辺利活用事業で実施している、「周遊プラン基礎調査」の調査結果を踏まえ、場所、整備が必要であれば、その財源等、まちづくり計画事業と併せて確保に向けた取組を進める。

② 国交付金の動向

全国的にも取組件数が増えている中、交付金の確実な配分をもらえるよう、引き続き、国への要望活動を続ける。

